

2003. 2月9日

氷ノ山山スキー

天候：霧雨 / 曇り

気温：5度～10度



東尾根最大斜面

メンバー

大塚賢一 47才

横小路利朗 53才

大本誠二 23才

コース

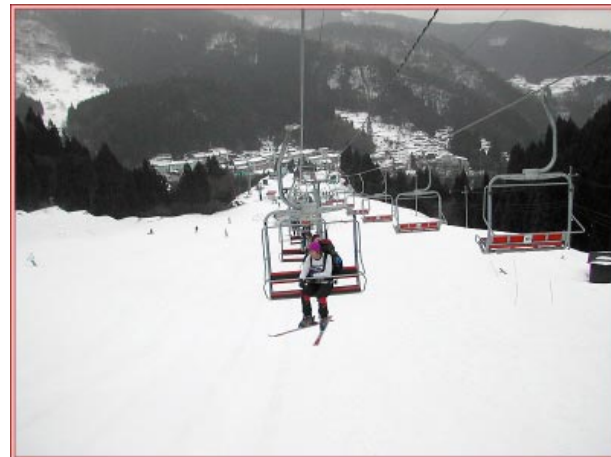
東尾根 - 山頂ピストン

8:50 780m 東尾根登山口

横さんは昨日も戸倉の県境稜線から三ノ丸まで行ったそうである、私と大本は峰山でクロカンスキーをしていた・・・お互いによく遊ぶメンバーである。

姫路のポプラに5時に集合し、氷ノ山国際スキー場へ・・・、7時着。

雪は1月より積もっていた。早速シールで林道を歩き出したが、登行リフトが動き出したので再び駐車場へ戻りリフトでゲレンデまで運んでもらった。詰め所に登山届けを出して色々と手間取ってしまっただけで結局東尾根の登山口に着いたのは9時前



リフトを利用する

であった。尾根と山頂付近はガスで覆われて何も見えない。

私はいつものようにハーネス・ザイル・スコップetc、フル装備でアイゼンでスキー引っ張りで行くことにする。

大本も引っ張りだが横さんは担ぎでの行動だ。スタートから霧雨混じりで合羽を着込むが、気温が高くて暑くてたまらなく途中で脱いでしま



急登の杉林を抜けて

まう。今日は天気も今一なのに何故かものすごい登山者である。ザッと50人はいるだろう、その内山スキーヤーは我々を除いて姫路山岳会の3人である。彼らは流れ尾根から登ると言っていた。

10:10 1140m 東尾根最大バーン手前

スキー場から杉林を経て

東尾根稜線は地肌が見えているところは一つもなく積雪も豊富であるが昨日の雨と今日の気温の高さで完全なモナカ状態である。

多くの登山者がトレースをつけてくれているので完全な道が出来上がっている。山頂が近づくとつれてガスは濃くなっているが全くに心配はいらない。先週とは全くに形相が違った氷ノ山である、一週間でこんなも変わるのものなのか・・・。

11:20 1510m 山頂着

姫路山岳会のメンバーとほぼ同時に着いた。今日は殆どが流れ尾根と東尾根から来ているようである。早速にそれぞれのメンバーがガスでラーメンを作り始めて小屋中はいい匂いで充満している。

12:20 下山開始

山頂付近は視界も悪いので他の登山者も早々に食事を済ませて下山準備にかかっている。

雪質は重くてモナカ状態なので当然のごとく思うようには板をコントロール出来ない。下半身に力を入れたパワースキーである。横さんも大本も四苦八苦してるがモナカなのでスピードが出ないし転んでも痛くもないので余裕の笑顔が・・・。

最大の斜面にさしかかるころにはすっかりガスも取れて視界も鮮明



小ブナ林を滑る

になってきた。このバーンでもパワースキーでバンバン飛びまくりである。さあ、しかしここからの狭い稜線は板をいかにコントロールするかによって技術の差が出てくる、と言っても私もへ口へ口でなんとかかんと東尾根避難小屋へ到着。彼らを待っていたが一向に来る様子もないのでそのま



モナカに苦勞する

ま杉林の急な斜面に突入した、これまた急な上に杉が狭い間隔で立っている上にモナカなので回りきれずに板が刺さってついに大転倒してしまった。

13:35 スキー場着

飯盒炊さん場も上の急斜面を滑って降りてなんとかスキー場到着、ザックを降ろして流れ尾根や東尾根を

眺めて彼らを待つこと30分。詰め所に下山の報告を済ませて一気に林道を滑り降りて駐車場へ・・・。

14:20 駐車場

林道は駐車場すぐ近くまで雪が付いており大助かりであった。

好きな本は何回読んでも面白いように、この氷ノ山も何度登ってもその都度違った顔で迎えてくれる。それほどに懐の深い山である。



山頂小屋前で

PS

東尾根稜線は私は大好きなコースであるが彼らは慣れない様子で途中から板を担いでいた。

この氷ノ山は3月一杯はまだまだ楽しめそうなので多めに遊びたいものである。